

# 五感を使って、建物の歴史を じっくり感じよう。

—— 旧小坂邸にて



見

天井から下がる、ローソクを模したデザインのシャンデリアは国産真鍮（しんちゆう）製。見上げながら説明を受ける。



音

玄関隣の「茶室」には、にじり口風の「連子窓（れんじまど）」があり、人が訪れると音や気配が茶室に伝わるようになっている。

各部屋に入ると、窓・扉・障子（しょうじ）の大きさを体感。



今日気付いたこと、小坂順造氏の暮らしたなどの感想を出し合った。

この建物の管理をお手伝いしています。今日は案内役をつとめました。丁寧に触ったり音を聞いたりして建物を感ることができ、あらためて小坂順造の人となり、人間性がこの建物に集まっていると思いました。良い材料を使っていますが、華美（かび）にならないところがまた素晴らしいと思います。ここは世田谷区の宝物です。みなさん、ぜひおいでください。

トラストまちづくり大学OB  
からのコメント



味

居間に面した庭でちよと休憩。栗のお菓子で季節を堪能。



香

崖線沿いに建つ邸宅。崖の上下では15〜20メートルの落差がある。その高さを実感するために、上下に分かれて交互に声を出し合い、音で高さを確認した。みどり多い国分寺崖線のフレッシュな空気も十分に味わった。



触

ひやりとした感覚の菱形（ひしがた）の鉛枠（なまりわく）に透明ガラスをはめ込んだ「ステンドグラス」の窓。



鏡台に小坂家の家紋が立体的に彫（う）こあるので触ってみる。



見えない人に説明することで自分でも丁寧にみることにつながる。



説明だけでは理解できなくても触ることで理解できる。



暖炉回りの手触りの違いから部屋の雰囲気（ふんいき）を想像する。



畳に切つてある「炉」を触って確認。

10月4日